九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について：「説話の語文」補正

春日，和男

https://doi.org/10.15017/2332720

出版情報：文學研究. 74, pp.7-51, 1977-03-30. 九州大学文学部
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について

―「説話の語文」補正―

春日和男

関戸家蔵三宝絵詞東大寺切に関して、筆者は両度にわたって活字飜刻を試みた。それらは、九州大学文学部創立四十周年記念論文集（昭和四十一年一月）および、小著「説話の論文古代説話文の研究」（昭和五十年十一月）にそれぞれ掲載したものであるが、何分短時日の間に急遽書写したものを原拠としたため、「将来を期して精密なものにしたい」といふことで、なほ問題点を残してあった。

もともと、東大寺切のやうな、書入れや補入、抹刷の多い原典を活字印刷の上に、精密に復元しようとすることは、技術面からもかなりの困難をともなふことはもちろんであって、完全なる複製はどうしても写真版の上に待たねばならない。しかし、今はとりあへず、重要な部分について補正をほどこし、「東大寺切語句索引」作成のための本文定本としておきたい。幸い筆者も昨年来、関戸家本の写真撮影を許可され、その殆どを手中に収めることができたので、その原板をもとに、もう一度本文の修正を行ふことにした。補正に際しては筑波大学教授馬渕和夫博士の特別な御援助によって、正誤表を与へられたことを記し、今は手元の写真をもとに、補正事項を脚注* として、かつ本文を可及的正確に訂正することにした。その大綱は既に「説話の語文」の中で明かにした線に副って表記して行くが、とりあへず特殊字体対照表と傍訓補筆用字体表を掲げる。その要領は次のごとくである。

一、特殊な草、平仮名書体は、概ね前項に表示した基準に従って、その原漢字体を用ゐる。但し傍訓、書き入れ等に

おける片仮名字体は現行のものに統一し、平仮名、片仮名だけの区別を行なふ。

二、表意文字としての漢字母、または草仮名以外の表音文字（例へば漢字の同音表記）等は、太字体で示して、仮名と区別する。

三、「見せ消ち」の個所は左右の〻符で示し、明らかな衍字と思はれるものは□で囲む。

四、誤字または、仮名遣ひの誤りは、その下に（　　）を入れて正す。

五、顕著な脱字の個所には〈　　〉を挿んで、その中に補ふ。

六、観智院本と対校して、辞句の異同が著しい箇所は傍線を、本冊子のみの辞句には傍点を付する。

七、○は辞句挿入の符号であるが、原文に付したままで示す。

特殊字体対照表

あ 阿阿　い 伊伊　う ○　え 盆盆　お ○

か 可あ　閑閑　き 支ま　く 具ぐ　九九　け 介介　希希　こ 古ま

さ 佐佐　散ゐ　し 志志　す 須須　春春　せ ○　そ 所所

た 堂堂　多ゑ　ち 地地　つ 徒徒　て ○　と 登登

な 那那　に 爾（ホ・ま）　二二　耳耳　ぬ ○　ね ○　の 能能

は 八（八）八　者者　盤盤　ひ 悲悲　日日　飛飛　ふ 布布　へ 遍（多邊邊）　ほ 本本

ま 万万　満満　萬萬　み 三三　身身　見見　む 無無　め 免免　も 毛毛

や ○　ゆ 遊（遊）　よ ○

ら 羅羅　り 梨梨　里里　る 流流　累累　れ 連連　ろ ○

わ ○　ゐ ○　ゑ ○　を 越越　乎乎　ん ○

備考　○印は現用平仮字体に近いものを用ゐ、特徴の少ないもの。
※印は用例僅少なるもの。

傍訓補筆用字体表

アア	あ	イイ	い	ウウ	う	エエ	オオ
カカ		キ〻		クク		ケケ个	ココ
サセサ		シシレミ		スス爪		セ。	ソメ
タタタたゝ		チチち		ツ〻		テチ	トトと
ナナな		ニニ		ヌ。		ネ子ネ	ノ乃ノの
ハハを		ヒヒ		フフ		ヘヘ	ホホ阝
マニマ		ミミミ		ムムム		メメ	モモ
ヤヤ				ユユ		エエ	ヨヨ
ララら		リリ		ルル		レレ	ロロ
ワワ		井井				耳耳	ヲシ
ンレンん				畳字〻		重点〳〵	

傍訓補筆における読み仮名、返点等は本文印刷上の都合により多く省略した。それ等は「関戸家蔵冊子による本文と用字」（説話の語文）の説明によって諒解されたい。

一オ（中序）

1 三宝絵

2 釈迦能ミのり正覚那り堂ま悲し日より

3 涅般爾い堂里たまふよ爾い多るまてと支

4 給へる登ゝろ乃もろ〳〵のことの悲と徒

5 もまこと那らぬなし者し免花こ

6 むをと支て菩薩さと爾ら志めたまふ。日

7 能いて、ま川堂閑支みね越てら春

一ウ

1 閑ことし徒支爾阿こむをのへて

2 声聞爾志ら志め堂まふしか久して

3 やうや久布か支た爾越てら春可こと

4 志又登ころ〳〵にして者うとう[ふの]くさ〳〵

5 の経をあらは春に仏者ひとこゑ尓て、

6 と支たまへとも衆生は志那〳〵爾し

7 たかひてさとりをうる事なれは

二オ

1 あ免は悲と徒あちはひ爾所、介とも

2 久さ支は多ね爾し堂かひてうるほひ

3 をう流閑ことし一十六ゑのなか爾はレ

4 若む那しきさとりを。へ四十よ年の

5 、地法花経能たへ那るみちをひら支

6 給へり和しのみねにおもひあら者れ

7 川るの者やし爾こゑ多え爾し

二ウ

1 より閑せふこ登は越可ねのこゑ爾

2 徒たへあなん身越閑きのあ那より

3 いれて徒悲に千人のら可んをえらひ

4 登、めて春へて一たいの正けふを

5 志るしお介り所れより能ち廿よ人

6 ひしりう希徒多へ十六人大こ久王ひ

7 ろめ万もり支尺所む者かくれ多方へ

三オ

1 れともけう法ハ登ゝ萬れはくすり
2 をとゝめて久春しの和閑礼ぬるに
3 お那し多れ可本那うのやまひをの
4 そかさらん多まをか希てと毛可らの　＊
5 さりぬる爾ゝ多り徒ゐ(ひ)に無明のゑ
6 悲をさま春へしそも〳〵天ち久爾(は)
7 ほと介のあらはれて登支多まひし

三ウ

1 さ閑ひ震丹(シレタレ)者のりの川たはれ(り)て日
2 ろ万れる久爾なりこの布堂ところを
3 支久に仏のみのりやうや久あはて
4 に多るへしもろこしの貞観(チヤウ)三年
5 爾　玄奘(クエンサウ)　三蔵の天ち久爾ゆ支免久り
6 志ときに雞足(ケイソク)の山ふる見ち爾はた　＊
7 け志希りて人もかよは春給孤独(キフコトク)

四オ

1 薗のむ閑しの爾はゝむろもうせて
2 所うも春まさり希り万かたこ久爾由
3 支て本たい春院をミれはむ閑しのこ
4 久わうの徒久れる観音のさうありみは
5 み那徒ちの所こにいりて閑堂よりかミ
6 わ徒閑爾いて堂り仏法うせをはらん爾
7 こ能さうい里は徒へし登い悲けり

四ウ

1 又もろこし爾。魔能風(カイクワウ)をあふ支て万さ
2 にのりの登もしひを介多むとせし
3 閑はあいせし能よを可な志ひし身越
4 うら身ていのちを春てをむほうしの
5 ミちをゝ志みしは王耳むかひて徒ミ
6 を論志支開　王(皇)能ころ本ひ爾閑さねて
7 悲ろまり大介ふのよに万堂おとろへ

（ヒシリオホクミチサカエクレトモシハ〳〵ミタルゝトキアリ□□□ヨニオホキニ）

五オ

1 志可はおにな支神な介支山なりう
2 ミさ和支、又会昌天子（クワイシヤウノテイシ）おほ久経論をや支
3 志閑は宮のうちの久卿（キヤウ）はかうへを堂礼
4 て那希支かとの万への官人はなむた
5 をな閑してかなしひ支かの貞観（ヒヒチヤウ）
6 よりこの閑堂三百六十よ年へたて徒礼
7 者天ち久をおもひやるに観音能さうい

五ウ

1 りや者てぬらん会昌（タイタウ）よりのち一百四十
2 よ年爾およひぬれは大唐をおし者か
3 流に法門能あと春く那久や那りぬらんあ
4 那堂ふと仏法悲む閑しにな可れてさ
5 かりに和閑久爾、登、まれりあとをた
6 れ多る悲しりむ可しおほくあらはれ
7 道越ひろめ多万ふ支みいま爾あひ徒

六オ

1 支た万へり十方にあひ閑堂具無らう
2 こふ爾支、かた支大所う経てんをこ、に
3 志て支、みることのこれおほろ介の衣む
4 爾あら春能りのこゑは登久の徒、ミの
5 ことしひとたひき久爾无明のあ堂越
6 ころす経能那は久春りのうゑ支爾
7 お那し和川閑爾かたらふ爾輪廻能や万

六ウ

ひをころ春（スクフ）雪山登うしは半介をもと
2 めていのちを春て佐い所う仙人者一け
3 をね閑ひて身をやふる常啼（タイ）はひむ
4 かし爾こひ善財者み那み爾もとめやく
5 王は飛ちをや支ふ明はかうへを春徒〃
6 てむ登志支たとひ一日に見多ひこ
7 うさの可須爾身を須徒ともな本仏

七オ

2 法の一句能おむを堂にむくゆるこ登
3 あ多はしむかしゆかの志た爾て経
4 越支丶志いぬはさ恵こ久にむ万れて
5 悲しり爾なりはやし能なか爾して　＊
6 能りを支丶志とりはたうり天ニむまれ
7 てたの志みをう介支とり介多もの
春ら閑久のことしいはむや人の徒ミ

七ウ

1 志みて支可んをや閑那し支可那めち
2 登の丶ちさう法能ころほ悲爾い多りて
3 もろこし爾は漢（カン）のよ爾い多りて明帝
4 能登支にはしめて天（たウヲイフ）ち久より徒多
5 はり我久爾丶は支むめい天王(皇)のよにお
6 所久者くさい国より支堂れり和礼い万た那
7 心をあ者せてのりの堂へ那る事を

八オ

（中序―中一上宮太子伝）

1 あらは春
2 無閑し上宮太子登まう春ひしりい万
3 須（ス）用明天皇の者しめ志（の）親王爾い万せし
4 〃登支止支爾穴太部（アナオ(ホ)ベ）の間（マウト）人能皇上女者ら爾むま
5 〃せ給へるみこあ（奈）〃りはらめは（志）丶の夫人
6 能ゆめ爾金志支のそうありてい者久
7 我よを須久ふ願ありね可はくは志者（ラク）

八ウ

1 御者ら爾や登らん我ハ久せ観音なり
2 いへ西方爾あり登いひてをとりて久ち爾
3 いりぬと見て者らまれ給へり太子
4 能御をち敏達（ビンタツ）天皇あ免の志堂をさめ
5 多まふ者しめのとし能正月一日爾夫人
6 宮のうちをめ久りてむ万やのもと爾
7 い多るほと爾おほ衣須してむまれ

九オ

1 多万へりおもと人い多支て志む殿爾い
2 る爾丶和(は)閑爾あ可支ひ可り西方より支
3 堂りている御身者那者多かう者し
4 四月能丶ちよ久ものゝ多まふあくるとし
5 能二月十五日。よりこゝろ徒可ら多那心をあ(のあし多)
6 者せてひむ閑しにむ可ひて南无仏
7 登の堂まひてを可み給六さい爾なり[た]

九ウ

1 た万ふニは久さいこ久より者しめてほ
2 うしあま支堂りて経論をもて和堂
3 れり太子所うし多まふもて和堂り多る
4 経論を見む登かうろ爾尓を多支て悲
5 ら支みることをはりて所う春月の八日十四〔日〕
6 十五日廿三日廿九日卅日これをは六さいと須この
7 悲はほむ王多いさ久。にの万徒り事を(クタリテク)

一〇オ

1 見るせさうを登丶むへしと万うし
敦生
2 給みかとよろこ悲多まひてあめの志た
3 にみことのりを久多してこ能日ミは
4 せさうをやむ(ト丶メシメタマヘリ)八年能ふゆ志(新)らより仏
5 像をたてま徒れり太子まうし多まふ
6 西こ久の悲しり尺迦無爾仏のさう那
7 りと百さいこ久より日らとい布人き堂れり

一〇ウ

1 身爾悲閑りあり太子み所か爾和ろ支
2 丶ぬを支てもろ〳〵能和らはへ爾まし
3 りて難波の多ち爾伊里てみる日ら
4 太子を見てあやし布太子おとろ支
5 てさる日ら徒ち爾ひさま徒支てた那
6 心をあはせてい者く敬(キヤウ)礼救(ク)世観世音
7 菩薩伝統(テントウ)東方粟散(ソクサン)王登まう春ほと爾

一一オ

1 日らおほ支爾身の悲閑りをはな徒太
2 子い(ハ)萬堂まゆのあ悲多よりひかりをハ
3 那ち多まふ又布堂(百済国ヨリ)ら久より見ろ久ほ
4 さちのいしのさうもて和堂れり
5 大臣所かの馬子能春くねこのさうゝけ
6 ていへの東爾てらを徒くりて春恵た
7 天ま徒りてうやまふ。(テ)あま三人を春恵

一一ウ

1 てや志那ふ大臣このてら爾塔を多徒
2 太子の堂まふ塔は仏さりのう徒わ(は)もの
3 なりさか如らい能御さりおの徒可ら
4 き多り那む登。(ノタマフヨ大臣キゝテ)いのる爾いもひのいひの
5 うへ爾仏さり一粒をえ多り流りの徒
6 ほ爾いれて塔におきてらい者い春太子
7 と大臣と心を悲と徒爾志て三ほうを

一二オ

1 ひろむこのと支爾久爾のうち爾やま
2 悲おこりて志ぬる人おほ閑り大連(レン)
3 物部(モノノヘノユケ)弓削乃守屋(モリヤ)と中臣(トム)の勝海(カツウミ)とゝも爾
4 所うしてまうさ久我久爾もとより神
5 越たう(ふ)とみあ可む志可る爾所可の大臣
6 仏のゝりとい布ものをおこしておこ那
7 ふこれ爾よりてやまひ。(ヨニ)おこりてたみ

一二ウ

1 ミ那しぬへし仏法(ヲ)とゝめてのみ那む
2 人のい〔の〕ちはのこるへきと所う春みこ
3 登のり爾い者久万う春ところあ支ら介志
4 者や久仏法を堂ちてよとの給太子ま
5 うし堂まふ布多りの人はいま多因果
6 乃理を志らぬなりよ支ことおこ那へは
7 佐い盤ひき多るあし支ことをおこ那へ

一三オ

1 は和さはひきたるこの二人はいま可那
2 ら春わさ盤ひにあ悲なんと所うし
3 多まへともせしありてもり。の大連を
4 てら爾徒可はして堂塔こほち本と
5 介経をや久や介のこれる仏をはな者の
6 ほりえ爾須徒三人のあまをはせめう
7 ちてお悲いた春スナハチこの日久もな久して

一三ウ

1 おほ支爾風ふ支あ免布る太子和さは
2 悲ハい万おこりぬとのたまふこの、ち可せのやま
3 ひよ爾おこりてやみい多むことや支さく
4 かことし二人大臣こと爾おもくやむ登か
5 を久いて所うし申春臣らやまひの
6 久るし久い多きこと堂へ閑多しね可
7 は久は三法爾いのらんと又勅ありて三人

一四オ

1 のあまをめして二人の臣に給てい能
2 ら志め又あら多めて、らを徒久ら志む
3 堂えうせ爾し仏法これよりおこる太
4 子能御ち、ようめい天王(皇)久らゐ爾徒支
5 たまひぬ二年ありての多まふ我三法 *
6 爾帰衣しなんと思所可の大臣おほせ
7 こと爾志堂可はんと所うして本うしを

一四ウ

1 免して堂り爾いる太子よろこひ給天
2 大臣能てをとりたまひてなん堂越たれ
3 て能多まは久三法能多へ那ることを人の
4 いま堂しらぬ爾大臣心をよせ多りうれ
5 志久もある可那この、ちある人ミそか
6 爾もりやの大連爾徒希てい盤久人〳〵ハ
7 閑りことな春めり徒者もの万う介よと

一五オ

1 伊へはこれを支ゝて阿都(あとの)いへにこもり
2 ゐて徒者ものをまう久中臣能勝海乃
3 連(ムラシ)万堂徒者ものをおこしてもりやの
4 大連をあひ堂春介むと須又み可とを
5 咒咀志たてま徒るときこえな(あ)りて所
6 閑の大臣太子爾万うしてい久さをひ支
7 ゐてもりやの大連をう徒もりや徒者

一五ウ

1 物をおこして城を徒支てふせ支多ゝか
2 ふ所のい久さこは久さ閑りなりミかたの
3 伊具さおちお(を)の、支てみたひ志り所支
4 うつるこのと支爾太子御登し十六なり
5 将軍(シヤウクン)の志里へ爾堂ち多万へりい久さの
6 ま徒りこと人はたの川勝(カハカツ)(奏)爾志めして白木(ヒヤクモク)**
7 越登りて四天王のさう爾きさみ徒久

一六オ

1 ら志めてもとゝりのうへ爾さし本この
2 さ支爾さゝ介て願をおこしての多まは
3 具我らをして多ゝか悲爾閑多せ多まへ
4 らは四天王をあらはし塔てらを堂て
5 むと大臣もか久のこと久願志てい久さを
6 須ゝめて多ゝ可ふ爾物部能守屋の大
7 連おほ支那るいちひのき爾の本りてち

一六ウ

1 か悲てものゝへのうちの大神をいのり
2 てやを者那徒太子能御あふミ爾あ堂
太子又舎人迹見赤梼ニ宣ヒテ四天皇ノ像ニ祈テヤヲハナツトヲ(ホ)クハシリテモリヤカムネニアタリヌ
3 れり佐可さま爾支よりおちぬ所のい
4 久さミ多れやふれぬせ免ゆ支てもりや
5 かゝ志らをきり徒いへのうち多可らさ
6 う所のをはみ那てらのものと那し多ま
7 徒久りの支しのうへ爾者しめて四天

一七オ

1 王寺を多徒これより仏法いよ〳〵さ閑り
2 になりぬ太子ノ御をち崇俊天王(皇)久らゐ爾
3 徒支給ぬこ能御よ爾太子十九ニして
4 閑う布り志多まふ又太子能御をち推者
5 古天王(皇)くらゐ爾徒支たまへり久爾のま徒
6 りことをみ那太子爾徒希多てま徒り多
7 まふ者久さいこ久の徒可ひ爾て阿佐(たさ)といふ

一七ウ

1 王子き堂れり太子を丶閑み堂てま
2 徒りてまうさく敬礼救世大慈観世晋菩
3 薩妙教流通(ケウルツ)東方日本国四十九歳伝燈演(テントウエン)
4 説登まう須太子まゆのあひ堂より
5 悲と徒能志ろ支悲閑りを者那ち多万
6 ふ太子か悲の久爾より多てま徒れる久ろ
7 きこむまのよ徒のあし丶ろ支にのりて

一八オ

1 久も爾いりて日むかし爾さりぬ徒可ひ(調使丸)
2 むまのみ支爾そへり人〳〵あふ支てみる
3 志那能丶久爾丶い多りぬ又(三)。こし能さか
4 ゐ(ひ)越めくりて三日ありて返たまひぬ
5 太子須い(ゐ)こ天王(皇)のおまへ爾志てかうさ
6 爾能本りて勝鬘経を閑うし多まふも
7 ろ〳〵能名僧をして支をとはしむる

一八ウ

1 爾登支こ堂布る事堂へなり三日かう
2 志お(を)者れる夜天より者ち春の花布れり
3 花の悲ろさ三尺徒ち三四丈爾三てりあ
4 くるあし堂爾み可と見多まふ所の地爾
5 てらを多徒いまの堂ちは那てら那り
6 ふれる花いま爾このてら爾あり又太子を
7 の丶いもこ越川か悲と志てさ支の身にも

一九オ

1 ろこしの衡山(カウ)爾ありて堂もてりし法
2 花経をとり爾徒かは春をしへて能堂
3 まは久赤県(セキクエン)能南爾衡山あり山能うち
4 爾般若寺あり我むかしの登う本う
5 者み、那須(て)爾志爾介む多、三人あらん
6 我徒可ひ登なのりて所こ爾須みしと
7 支爾太もてりし法花経のあ者せて

一九ウ

1 悲とま支爾せるあらんこ悲てもて支
2 堂れ登の多まふいもこ和堂りゆ支て
3 をしへ爾志堂かひてい多りぬ可と爾悲
4 登りの沙門ありてみて春那者ちいりて
5 思禅法師(念比丘)能徒可ひ支多れりと徒久那
6 礼者おい堂る僧三人徒恵を徒支てい徒
7 よろこ悲ゑみて徒可ひ爾をしへて

二〇オ

1 経を登良志め徒春那者ちもて支多
2 礼り太子斑鳩(イカルカ)能宮能寝殿(シムテン)の閑堂者
3 ら爾やを徒久りてゆめとのと那徒久一
4 月にみ堂日ゆめをみているあ久るあ志
5 堂爾い〔伊〕て、衣布堂いのことを閑多る
6 又このうち爾いりてもろ〳〵の経の所を
7 徒久り多まふある堂悲ハ七日七夜いて

二〇ウ

1 多まはてとを登ちておとも志多まは
2 須高麗恵慈(カウライノエシ)法師能い者具太子三万い定
3 爾いり堂まへりお登ろ閑し堂てま徒
4 らされと八日とい布日いて多まへり堂ま
5 の徒久恵のうへ爾一巻の経(オトロキテ)あり恵慈法師を
6 めして閑堂りての多まは久我さ支の身ニ
7 衡山爾ありしと支爾多もて里し万

二一オ

1 ことの**経**盤これなりい爾し**年**いもこかもて
2 き多りしは**我**てしの**経**なり**三人**おいた
3 る所う能**我**をさめしところを志ら春
4 志てこと経をお久れ(り)し閑は**我**多ま志
5 ひをやりてとらせ徒るなり登のたまふ
6 **見**あは須る爾閑れ爾はな支**字**ひと徒あ
7 りこの堂ひの**経**も**一巻**爾閑介り支なる

二一ウ

1 閑み爾て**玉**のち久あり**又百済国**より**僧**
2 **道**(欣上)**幌**ら**十人**支堂りて徒可ま徒るさきの
3 よ爾**衡山**爾志て**法花経**をと支多まひし
4 と支**我**らは**盧岳**(ロカク)の**道士**(シ)登志てと支〳〵
5 まうてゝきゝ志**人**〳〵なり登まう須のち
6 のとしをのゝいもこ万堂もろこし爾
7 和多れり**衡山**爾ゆ支堂れはさきの所

二二オ

1 う**一人**のこれりか堂らひてい者久こ所の
2 **炁**なむちか久爾の**太子**もとは**思**(念)**禅師青**
3 **竜**の久ろむま爾のりて**五百**の**人**を志多
4 閑へて**東方**より所らを布みてき多
5 りてふる支むろ爾い里てさ久りて**一**
6 **巻**の**経**をとりて久毛を志の支てさり爾
7 き登いふあ支らか爾志りぬかのゆめとの

二二ウ

1 爾伊里多まへり志ほとのこと那り介り**太**
2 **子御**(ノ妃)ひかしはてのうち閑堂者ら爾さふ
3 らふ**太子**閑堂らひ多まふ支み**我心**のこと志
4 悲登徒、のことも堂可は春さいはひなり
5 われ志那む**日**はあ那をお那し久志て
6 ともにう徒むへしとひこ多へてまう須
7 **千**、乃あ支よろ徒の登しあしたゆふ

二三オ

1 へ徒かう万徒らんとこ所おもへな爾**心**あ
2 りてか希ふはをはりのことをはのた万
3 ふと**太子**こ堂へ多まふ者しめあるは
4 をはりありもの丶さ堂まれる**理**なり
5 悲登多ひはう万れ悲と多ひは志ぬる**人**
6 能徒ねの**道**なり**我**無閑志あま堂の**身**
7 越閑へてほと介の**道**をおこ那悲徒とめて

二三ウ

1 和徒閑爾**小国**能**太子**登して堂へ那る**議**
2 を**流布**志徒のり那きところ爾**一乗**能**教**をと
3 き徒**五濁**のあし支よ爾日さ志久はあ所
4 はん登おもは春との多まふひなん堂を
5 堂れてう希多まはる**太子難波**より**京**
6 爾閑へりたまふ閑堂を可の**山**の本とり爾
7 うゑ多る**人**ふせり久ろこまあゆま春

二四オ（下十五薬師寺万燈会）

1 くはへてあたふ春那盤ち春那盤ち本と介の
2 おまへ爾とも春もえむことよ那可まて爾た爾
3 たるましをむなち可ひていはくもし**我**
4 のち能よ爾本と介と那るへくはね可は久は
5 このあふらつ支春して。ひかり支えされといふほ登
6 介もくれむ爾つけたまはく**天**夜春て爾あ介ぬ
7 ともしひを介徒へしともくれむ堂ちても

二四ウ

1 ろ〳〵能ともし**火**をけつ爾わう能ともしひは
2 きえぬひ**女**可ひとつ能ともしひみたひけつ爾
3 きえ春介さをもちてあふけとも所の**光**いよ〳〵
4 まさるほと介の丶多まはくやみね〳〵これの
5 ちのよ能**仏**のひ可りなれ盤なむち可ち可らのおよ
6 ふへ支爾あら春との**女**卅こ布をへてほと介爾なら无
7 なをは春みとう**光**如来といはむとのたまふ**女**支

二五オ　（下十八灌仏―下十九比叡受戒）

1　今日。せ春はいて(つ)可わ可*せむとし盤へ爾徒徒
2　さよはへ爾徒徒ゝといふこと。者行基菩薩の
3　と那へたるなり「比叡受戒。む可しまつせ門
4　戒。を徒多へたり伝介うたいしもろこし爾
5　わ多りて顕蜜のみちを那らへり菩薩戒ヲ
6　また徒多はれるなり延暦の春恵能とし
7　爾年分をまうしお支弘仁能春恵能ころ本

二五ウ

1　ひ大師者しめていはくなむかく天台能
2　ふたりの大師み那菩薩の可いをうけたり
3　といひておほやの所うはこのかいを徒多へう
4　くへしといひておほや介爾まうしさため給ニ
5　九たされ可多志たいしふてをふるひもを
6　とはしてけむかいろ三まきをつくりて
7　たてまつれり。もむおほくあ支らかなり

二六オ

1　しかは弘仁。
2　十三年六月爾これをゆるしくたして官
3　符をたまひ戒壇をたて多りこの大少
4　可い乎はあま多の経爾ほめ多りほう
5　王経爾い盤く菩薩の可いをうけさるものは
6　ちくさう爾こと那ら春なつけてさむけと
7　春那つけて外たうと春もしほうしありて

二六ウ

1　いち爾をゝしへて菩薩の可いをうけしむる
2　は久とく八万四十四能たふをたつる爾まされ
3　りいはむや三(二)人三人百千人をやとのたまへり
4　また志むち観経爾いはく上むほむ爾たも
5　つは本うわう能くらひ(ゐ)をえて衆生をみち
6　ひく中品爾たもつはりく(ん)わう能くらゐをえ
7　てもろ〳〵の多能しひをう久下品爾ハ(た)も

二七オ

1 つは可いをあやまちやふりてたとひあくた
2 う爾おつれと。戒（モ）のち可ら春くれたる爾よりて
3 つね爾そのな可能王となるもろ〳〵のとも可
4 らした可ひゐやまひてこゝろ爾しさいを
5 え多りこのゆゑ爾もろ〳〵能衆生は菩薩の
6 さう可いをうくへしさうしのふ可支う見
7 をこゆる爾は菩薩戒をふねと須ほ那う能

二七ウ

1 者介し支みちを春くるにはほさち可いを
2 やとりと春とむしのまつ悲つ那介る爾は
3 本さ可いをと支徒る支と春鬼（魅）まのなや万
4 しわつらは春を盤那るゝ爾はほさ可いを
5 よ支く春りと須とのたまへり本さ可いといふは
6 三須さう可いなり一爾は（摩）せふりちき可（律儀戒）いもろ〳〵
7 のよ支ことをおこ那ふも（悪万ヲ断スル也）〳〵〳〵〳〵

二九オ

1 **厳経八十巻**をみ那須(誦)志う閑へて徒須(出)
2 介せむ事をね閑悲てかミを所りてあ〝
3 まと那りぬ道をおこ那ひて人を、志布
4 所のこゑ多布登久可那志久志てきく
5 もの那む堂越おと春所のかたち人爾
6 こと爾志てか久れ堂流登ころれいに多
7 かへりた、わ徒閑爾ゆ者りのみちの

二九ウ

1 ミありよの人おろ閑那るものこれをわ
2 らひてさる悲し里とい布この久爾のこ
3 久**分寺**の所う**又豊前国宇佐**(ブ)(ウサ)能**大神寺**
4 能**僧**ふ多りこのあまをに久みてい者久
5 なむちは**外道**なりとい悲て和らひ那や
6 ま須と支爾あや志支。(上)人所らより支た
7 りて、越もちて布多り能所うを徒

三〇オ

1 閑むい久は具も那久してとも爾志ぬ
2 **宝亀七八年**能ほと爾**備**(ヒ)**前ノ国佐賀郡大**(サカノコホリノ)
3 **領**(リヤウ)**佐賀ノ君**(児ミ)。とい布**人安居会**(アムコエ)をまう介て
4 **大安寺**(や)能**戒明**(カイミヤウ) **大徳**(トク)能**筑紫**(ツクシ)能国の師ニて
5 あ流をよひて**八十花**こむ**経**をかうせし
6 むるにこのあま日ミに支多りて座をか、
7 春志て衆のな可爾あ里天支久かう志

三〇ウ

1 これをみて能りは徒可しめていは久
2 な爾須るあまかミ堂り閑はし久万
3 志りてゐるへ支登いふあまこ多へて
4 い者久**仏**は**平等大悲**爾いま須ゆへ(ゑ)爾い
5 さい春**上**(の)を〝堂め爾**正教**を**流布**し多まふ
6 那爾のゆゑ爾和支てせいしたまふ所も〳〵
7 う堂かひある。登悲(ことなんある)まうさむとて**花**

*

三一オ

1 **厳経**のけをい堂してとふかうしこ堂
2 布流ことあ堂は春こ能さ爾あるもろ〳〵
3 能**智徳名僧**あやし閑りておの〳〵**人**〳〵トヒ
4 **心**ミ流耳あま**一**〻にこ堂ふる**事**堂徒
5 へ那り悲しりのあとをたれ堂る那り
6 介り登さ堂めてな徒介てさり**菩薩**
7 登い布**道俗**那悲支うやまふこれを**化**

三一ウ

1 **主**と志てみ那所のをしへ爾志多可ふむかし
2 **仏**ノよ爾いませしと支爾**舎衛城**能**須達**
3 **長者**能む須め**蘇**蔓かう免りし閑ひ
4 こ**十枚**をとこ**十人**爾なりてみ那**羅漢**
5 の**果**越え多り**迦毗羅城**能**長者**のめハ
6 らみてひと徒の志〻むらをうめり**七日**
7 い堂りて志〻むら悲ら介て**百**能**童**

三二オ　（中四―中五衣縫伴造義通）

1 **子**あり**一時**爾須介志て**百人**とも爾**羅**
2 **漢**能**果**越え堂り和閑み可と爾むまれ
3 多る志〻むらもい爾しへ爾な春らふ
4 邊志**霊異記**爾みえ堂り　恵あり
5 **小墾田宮**ハ(ヨ)ハレたノニあ免能志多をさめ**給**ミ閑との
6 **御**よ爾**衣縫**コロモヌヒノトモツクリキトウ**伴造義通**といふものあり
7 堂ちまちにおも支やまひを衣てふた

三二ウ

1 徒のミ〻登も爾志ひあ志支可さ**身**
2 爾あまね志登しをへていえ須み徒可
3 らおも者くこれむ閑し能徒みのまね
4 くところなりこのよの**事**にはあら春と
5 那閑具い支て**人**爾〻久まれむよりは
6 志可しとくを徒くりて登久志那
7 無にはと**思**て爾はを者支多うを可

三三オ

1 さりて天義禅師を佐うしてかう須　＊
2 い(ゐ)をあみて身を支よめて信心をい堂
3 志て方広経をよま志むこゝ爾せし
4 爾申志ていはくいま和可ゝ堂め爾悲とり
5 の菩薩能御。多ゝ志ねか盤くは大徳の
6 ちのよをみちひ閑むとおもへといふせ
7 しこれを支ゝていよ〳〵ねむころ爾

三三ウ　(中五―中六播磨国漁翁)

1 よろこひてせしをかさねてをかむ爾
2 布多徒のみゝとも爾あきぬとを(本)支も
3 ち可支もおとろ支あや志ま春とい布こと
4 那し人能こころ爾まことニふか介れはの
5 りのちからもむ那しからぬ事を志
6 りぬ霊異記爾ミ衣堂り
7 播磨国飾磨郡濃於寺爾京ノ元興寺

三四オ

1 僧慈応大徳檀越能請をえて安居のあ悲
2 たゐ多り須那者ち法花経を閑う須
3 所のてらの和堂り爾春那とるお支那
4 あり和閑うよりおい爾およふまていを
5 登流事をこと、せ梨ニわ(は)可爾いへ能うち
6 能くは能支のなか爾者ひまろひてこ
7 ゑをあ介てさけ悲那支てい者く

三四ウ

1 あ徒支本のほ身をせむ。我を多春介よ
2 登よ者ふ人あ徒まりて須くはむとて
3 よ流爾又さ介ひてい者く我爾ち可徒
4 くことな可れよらは身や介那むといふ
5 志多し支ともからてら爾者しゆ支
6 て行者もとめてよひてゐて支多りて
7 閑らせしむや、悲さし久ありて

三五オ　（中七義覚法師―中八小野朝臣庭麿）

1 能ち爾**又心経**を春、礼者悲ら介とほ
2 れ流こときさのことしこの**心般若**能
3 **不思議**なる那り登いへり**霊異記**爾ミ
4 衣堂り
5 **越前**の久爾、か、のこ本り爾う閑れ人の
6 ことを登りおこ那ふをさありほかの
7 久爾よ梨支多れる人あれは所の那を多

三五ウ

1 川ね志るしてさふやく爾閑梨徒可ふう調（テウ）
2 **用**（ヨウ）を徒介は多ると支爾**京**の**人小野朝臣**（オノノアソム）
3 **庭麻呂**（ニワマロ）登い布ものうは所くと那りて
4 徒ね爾**千手**能**咒**を須し堂もてり
5 閑のこ本りめくりい多りて山／＼をとを（ほ）り
6 あるくに**神護景雲三年歳次乙酉春**
7 **三月廿六日午時**爾所のこ本りの**御馬河**（ミマカハノ）

三六オ

1 **里**（リ）ニして閑のをさこの**行者**あひて
2 なんちはい川れの久爾の人所登、ふ**行**
3 **者我**者須**行者**なりよ爾布る人爾も
4 あら春登こ堂布をさい閑りてい者く
5 なんち可堂ちなを（ほ）所久那りう閑れて
6 この久爾、支多れり伊閑てかおほや
7 介のおこな布爾志堂可は春志て、うよ

三六ウ

1 う。伊堂さ佐流へ支とせめて志者りてう（を）
2 ちおひ徒可ふと支爾**行者**能い者くきぬの
3 志らみも閑しら爾のほれはくろく那る
4 閑志らの志らみも支ぬ爾久多れは志ろ
5 く那る無しも春む登ころ爾、て所のい
6 ろをあらはせは**法文**たも徒**所**爾志多
7 閑悲て所のち可らをあらは須へきもの

三七オ

1 なり**我**。うへ爾堂ら爾をい多ゝきせ那閑
2 爾**千手経**をおへり**法**能ち可ら爾よりて
3 よのわさは悲爾はあはしとおもひ徒る遠
4 な爾のゆへ(ゑ)爾か**大**所う**経**を堂もてる
5 **我身**の徒みも那くして志者りう堂れ
6 て者ちをみる所堂ら爾まこと爾介む
7 ましま春へくは多ちまち爾所の志る

三七ウ

1 志ゝめせとい悲てな者をもちて**千手経**
2 をか介てさりぬこのところの登をさの
3 いへとされること**一里**は可りなりをさ
4 伊邊爾**返**て閑とのまへ爾て**馬**よりおるゝ
5 爾徒よく徒支てを(お)りられ春ゝな者ち
6 **馬**爾能りな可ら所こ爾のほりてゆ具
7 **行者**のう堂れ徒るところ爾い多りて所

三八オ

1 らの**中**爾閑ゝりとゝまりて**一日一夜**を春
2 く春までおち春あくる**日**のむまと支
3 爾なりてきのふ**行者**をうち志と支の
4 ほと爾およひて所らよりおちてしぬ
5 所の本ねく堂介をれ多ることさんを
6 ふくろにいれ多るかことしもろ〳〵の**人**これ
7 を身て[これを]おちお所らぬもの那し

三八ウ (中八—中九山城国囲碁沙弥)

1 **霊異記**爾みえ多り
2 む閑志やましろのく爾ゝ**一人**能悲(沙弥)とありて
3 **沙弥**(人)とゝも爾こ越う徒ほと爾**乞者**支多りて
4 **法花経**の**品**をよミて志支(を)ゝこふさみこれを支ゝ
5 てわらふさら爾久ちをゆ可めこゑを万ねひて(よこたへて経を)
6 よむ所くこれを支ゝて子(五)をう徒ことは爾
7 あ那お所ろし〳〵登いふ所久は多ひこと爾可徒

三九オ

1 さみは堂ひこと爾まくこゝ爾さみ須那者ちゐな
2 から久ちゆ可みぬ久春し具須里をもちて
3 徒久ろへともな本ら春**法花経**爾い者くも
4 志かろみわらふものあらはまさ爾ゝ和(は)閑爾く
5 ちひるみ者那ひらみてあしも登りゆ可み ※※
6 [ぬ]め須可女爾那流へ志といへり**霊異記**爾ミ衣
7 堂り

三九ウ (中十山城国造経笥人)

1 **聖武天王**(皇)の**御**よ爾やましろ久爾さ可らかの
2 こ本り爾**願**をおこしてある**人**あり**姓名**い
3 ま堂徒者ひら可那ら春**四恩**をむ久ゐ(い)むか
4 多め爾**法花経**をか支多てま徒りてこの**経**
5 いれたてま徒らんとてはこを徒久らんとおもふ
6 **白檀**(びゃくだん)**紫檀**(しだん)をもとむる爾さから可の**京**よりと
7 ふらひ衣多りせ爾**百貫**志て可悲とり徒さい

四〇オ

1 久を春ゐて者こをち(さ)しい多したるに ※※
2 **経**はな可久はこはミしか久ていれたて万
3 徒る爾多へ須**檀越**おほ支爾な介支て
4 **又**こと支をもとむる爾登布らひえ須**心**
5 をい堂して**願**をおこ志てあまたの所う
6 をさうして**三七日**を閑支りてこの支とふら
7 悲えさせ多まへといのりこふ**二七日**ありて

四〇ウ

1 こゝろみに**経**をいれみる爾**経**なを(ほ)いらねとも者
2 こ春こしの悲多り**檀越**よろこ悲あや志悲
3 てま須〳〵布可久徒、志みいのる**三七日**を須
4 久している、爾よ久いり多まひぬ**人**〳〵あや
5 志ミう堂可ふもし**経**能志、まれる可も
6 しはこの、ひ堂る閑登て須那者ちも
7 との**経**登りいて、あ堂ら志支**経**爾久らふ

四一オ　（中十―中十一高橋連東人）

1　連は閑れもこれも多介ひと志又布多徒の
2　経をならへて悲と徒者こ爾い流れはふる
3　支はいら須志てあ堂ら志支はいるまさ爾
4　志るへし大所う能布志支能ちから願主
5　の布可支まこと爾閑那ひ給なり霊異
6　記爾志るせり
7　堂閑者志のむら志あ徒万人はい可の久

四一ウ

1　爾やまたのこほり久悲志ろのさとの人
2　なりおほ支爾登みてた閑らゆ堂可那
3　り志爾介流盤丶能多め爾法花経をかゝせ
4　堂り久やぅ志たてま徒らんとてい徒くし
5　久たうを可されり法ゑあ春おこ那者む
6　登てかうしをもとめ爾やる徒可ひ爾いま
7　志めていは久ま徒はしめ爾あ者ん人を

四二オ

1　我堂め爾縁ある師とせよのりおこ那悲徒
2　へ支か堂ちならはき多らん登春らん(毛)閑
3　那ら春さうせよといふ徒可ひい布爾志堂
4　可悲てか登をい徒お那し支こ本りの
5　さと爾乞者あり者ちと布久ろ登を日
6　ち爾可希てさけ爾ゑ悲て道爾布せり
7　徒可ひこれをみておかむよ悲とりていへ

*

四二ウ

1　爾かへりぬ願春あ悲てゐやまふ一日一夜い
2　へのうち爾かくして須ゑ多りたちま
3　ち爾ほうふ支を徒くりてあ堂布乞者
4　な爾和させさせ多万ふへ支所と丶へは法花
5　経を閑うせしめん登春るなりとこ多ふ
6　乞者おのれはさとれるところ那し堂丶和
7　川閑爾。は若(般若)多ら爾を能ミ須し堂もち

四三オ

1 て志支をこ悲ていのちをや志那布いか
2 てか**経**はかうせん登い布**願主**なほゆる
3 さ須**乞者**ミそか爾爾介の閑れなん登おも
4 悲多る爾**願主**可ねてう堂可ひて**人越**所
5 へてまもら春**乞者**のゆめ爾あ免那るめ
6 うし支多りてい者く**我**者これこのいへの
7 ある志のハゝなりこ能いへのうしのな閑爾あめ

四三ウ

1 なるめうしあり所れを和礼と志れ登われ
2 い介りしと支このものをぬしミよう
3 志支このゆゑ爾うし能**身**越う介て
4 所の徒みを徒久のふなりあ春わ可多
5 め爾**大**所うを登くへ支。師なれはこよひ
6 **念**ころ爾徒介志ら須る那りまこと所ら
7 こと志らん登おもハゝのりと可ん堂う能う

四四オ

1 ち爾**我**多め爾さを志け**我**まさ爾の
2 本りゐん登い布ゆめさ免て**心**のうち爾
3 おほ支爾あや志ふあ久るあした爾い那
4 布れ登もゆるさ須可うさ爾のほりて
5 い者久いや志支**身**者那盤堂おろか爾志て
6 もとよりさとりも那志**仏**爾もの**申**志**経**
7 を登久へ支**事**をも志ら春堂、**願主**

四四ウ

1 爾志多可ふ可ゆゑ爾このさ爾のほれるなり
2 いぬる**夜**ゆめ爾志めせることあり登て　*
3 所のゆへ(ゑ)を閑多る**檀越**(クンオツ)お登ろ支き〔、〕て
4 堂ちて、徒可らさを志支徒いへ爾徒可ふ
5 あ免那るめうし支多りたう能うへ爾
6 能ほりてこのさ爾悲さま徒支て布志
7 ぬ**願**春おほ支爾な支てい者久まこと爾

四五オ

1 **我**さら爾志らさり介りと志ころ久るしめ
2 徒可ひ堂てま徒り介るか和可**心**のおろか爾
3 閑那志久もあるか那介ふこの**事**を志り
4 ぬれは**経**能ちからのうれし久多う(ふ)と久
5 もいま春か那介ふよりのちはい多者り
6 や志那悲多てま徒りて徒か悲多て
7 ま徒ら志とな支閑那志布うしこの

四五ウ

1 **事**を支丶てい支を那介支なむ堂を
2 いた春**法事**を者るほと爾このうし須那〔は〕
3 ち志ぬ支多りあ徒まれる所こ者久の**人**〳〵
4 こゑをあ介てミ那丶久所のこゑ**堂**能
5 うち爾は爾悲丶久い爾しへよりのちいま
6 堂かゝることあら志登あや志ひてさら
7 爾所のはゝの多め爾可さねてくとくをお

四六オ　(中十一―中十二大和国山村郷女)

1 こ那ふ万こと爾志りぬ**願主**の**報恩**を徒と
2 め堂流まことをい多せ流可ち可ら**乞者**
3 の**神**須を春せるこ〔く〕ゝゝゝ

四七オ

1 ぬ支てあらひ支よめて春行をおこ那
2 ふあし支ゆめ又閑さねてミゆハ丶の心ま
3 須〳〵お徒又き多るものをぬ支てあらひて
4 春行をせしむ丶須めをとこ爾志堂可
5 悲て久にの多ち爾須む布多りのこいて丶
6 には爾あ所布は丶はやの内爾あり布多り
7 のこは丶爾伊ふやうやのうへ爾な丶の法師

四七ウ

1 ありて経をよむ登久いて丶ミ多まへ登
2 いふ爾志多か悲てや能うへを支久爾まこ
3 登爾経をよむこゑありはちのあ徒ま
4 りて那るかこと志者丶あや志みて爾は可
5 爾いてぬるに所のや春那者ち堂ふれぬ
6 な丶の法師堂ちまち爾み衣春む春め
7 あや志悲て心のうちにおもふ天地我を

四八オ

1 た春介てゃニお所悲ころされ須なりぬる那
2 りとよろこ悲のちには丶徒可ひをやりてあ
3 志支ゆめをミしさまをい悲春行をお
4 こ那悲しよ志を徒久む春めこ能よし
5 をき丶てま春〳〵三本うをゐやまふ春
6 な者ち志りぬ春行のちから爾三本うの
7 まもり多まふなり霊異記爾あり

四八ウ　（中十三置染臣鯛女）

1 置染臣鯛女者な良能西のさうせ（さ）のあま
2 乃む須めなり道心布可久徒よ久志
3 て者（ハ）志めよりを登こせ春徒ね爾那、越
4 川みて行基菩薩爾堂てま徒ること
5 一日も於こ堂ら春山爾伊梨て那、を
6 徒む爾おほ支那る久ち那者乃於ほ
7 支那る閑へるをのむをミる女閑那志ひ

四九オ

1 てい者久こ乃かへる**我**爾ゆるせといふ爾
2 なを(ほ)のむ布可久か那し布爾堂へ須志て
3 久ち那は、閑久いふ爾なんゆる須那る登
4 支、て和礼なむちかめ登那らんなを(ほ)
5 ゆれ(る)せとい布爾久ち那者堂か久か志ら
6 をも堂介てをんなの閑本をまは(ほ)
7 りて閑へる越者支いて、ゆる志徒**女**

四九ウ

1 あや志登**思**て**日**をとほ久な志ていま
2 **七日**ありてをとこと堂は布れ爾いひて
3 さ梨ぬ所のゆふへ爾なりおもひいて、
4 おそろし介れはねゃをとちあなを布
5 多支て**身**越閑堂めてうち爾こもれ
6 里久ちなは支多りてを、もちて閑へ
7 を堂、介ともいる**事**あ堂ハ須志てさり

五〇オ

1 ぬあくるあしたいよ〳〵おちて**行基**ほ
2 さち乃**山**てら爾ゐ堂流**所**爾ゆ支てこ　＊
3 のよしを堂須介よとい布爾こ堂へ
4 てい者久なんちまのかる、**事**をえ志
5 堂、閑多久可いをう介よとい悲て須
6 那者ち**三帰五**閑い越う介徒**女**閑へる
7 **道**爾志らぬお支那あ悲ておほ支那

五〇ウ

1 [那]る閑爾をも多りをん那のい盤久那
2 爾**人**所そ乃閑爾は和礼爾ゆるせとい布おき那
3 乃い者久**我**ハ川乃久爾のむこのこほり爾
4 須む**姓名**をは志か〳〵といふ**年七八十**爾那
5 梨ぬる爾悲とりの**子**も那志よを布る爾
6 堂よりな介れはな者の和多り爾ゆ支て
7 たま〳〵こ乃閑爾を衣堂り**人**爾とらせん

五一オ

1 登ち支れ流ことあれはこと人爾はゆる志
2 か多志とい布をん那ころもをぬ支てい可
3 ふ爾ゆるさ須又もをぬ支て久は布
4 流爾うり徒をん那閑爾越もちててら
5 爾かへりて行基菩薩志て咒願せし
6 めて堂爾河爾者那徒行基ほめてい
7 者久よい閑那堂布と支可那登をん

五一ウ

1 那いへ爾閑へりて所乃よ堂のミおも悲て
2 ゐ多る爾久ち那はやのうへよりお梨久多る
3 お本支爾お所りて登こを佐りての可
4 れ可くれぬとこのまへを支久爾をとりハ多
5 め久こゑありあ久るあし堂爾ミれは悲
6 登徒のおほ支那流閑爾ありて久ち那
7 者を徒多〳〵ときりお介り春那者ち

五二オ

1 志りぬ閑爾乃和可おんをむ久い和可仏
2 かいをう希多るち可らなりとまこと徒
3 者りを志らん登て人を徒の久爾、やり
4 てお支那乃いへを多徒ね登ハ志む流爾こ
5 乃こ本りさと爾さら爾な支人なりと
6 い布又志りぬお支那者へ化乃人なり
7 介りと霊異記爾見衣多り

五二ウ（中十四楢磐島）

1 楢般（ならのいは）志まは聖武天王（皇）乃御よのならの右京
2 六条五坊乃人なり大安寺能西乃さと爾須む所
3 乃てらの春多ら久のせ爾卅貫を閑りう介
4 てこ志の川る可の徒爾ゆ支てものを可悲て
5 布ね爾徒見てかへる本と爾、和（は）閑爾やま悲をう
6 介て布ねをとゝめて馬をかりて悲とりい所
7 支ていへ爾かへるあふみの久爾堂可志まの

五三オ

1 こほりをゆ支て三閑へり堂礼者をとこ**三**
2 **人**お悲て支多るされ流ほと**一町許**なり**山**志ろ ＊
3 能うち者志爾い多りてお悲徒支て所悲ゆ久
4 い者志まと悲てい者久い徒ちゆく**人**所とこ堂
5 へてい者く衣むら**王乃宮**乃ならのい者志
6 ま越め志爾ゆ久徒可ひなりといふ支、おと
7 ろきてい者久所の**人**者和礼なり那爾能ゆ

五三ウ

1 へ(ゑ)爾め須所徒可ひのお ニ乃い者久ま徒なむち
2 かいへ爾ゆ介支てと悲徒流爾あ支那悲志爾ゆ
3 支ていま堂可へら春とい悲徒礼ハ徒爾ゆ支
4 てもとめえ多る爾所こ爾して須那者ち
5 登らへん登志徒るをし和う乃徒可ひと
6 いふもの**又**支多り閑堂らひてこの**人**てら
7 乃せ爾をう介てあ支那悲て堂てま徒

五四オ

1 流へし、者ら久ゆるせとい悲徒れハいへ爾
2 かへるまてゆるせ流なりと**我**悲ころなむち
3 越もとめ徒る爾うへ(ゑ)徒可れに多りもし志支
4 ありやと、ふい者志ま可い盤久和れ**道**爾ても
5 須可ん登てほしい悲須こ志をもち多り
6 登い悲てこれをあ多へて久はせ徒**鬼**なん
7 ち可やむハ和可介なりち可久はよら志お所る

五四ウ

1 、こと那かれとてとも爾いへ爾い多りぬ志支を
2 所那へておほ支爾ある志春**鬼**乃い者く和
3 れはう志の志、をね可悲久ふ所れをもとめ
4 て久はせよとよのな可爾うしをとる**鬼**ハ
5 和礼なりとい布。**我**かいへ爾ま堂ら那るうし
6 ふ多徒あ梨これらをあ堂へん**我**をゆるせ
7 登いふお爾のい者久**我**おほ具那むち可

五五オ

1 志支をえ徒そのを(お)んをむ久ゆへ志堂、
2 しもしなむちをゆる志てハ**我**おも支
3 徒みをお悲て久ろ閑ねの徒ゑをもち
4 ても、堂悲う多るへ志もしなむちと
5 お那し登し那流**人**やあると、ふい盤志
6 まこ堂布和礼さら爾志ら春といふ悲と
7 りの**鬼**多は閑りてなむちはな爾のとし所

五五ウ

1 と、へは徒ちの衣とらの登しとこ堂ふ**鬼**能
2 い者久和れ所乃と志の**人**乃あるところを志れ
3 りなんち可はりにかれをめさん堂、志由
4 るし徒るう志は悲と徒なん久悲徒る
5 **又**わ可う堂れむ徒みを〔ま〕ぬ可れ志めんか
6 多めに和れらみ多りなをよは悲てこむか
7 う**般若経百巻**をよましめ多てま徒れ

五六オ

1 **我**らをは**一**のをはかうさ万ろといふ**二**の
2 をは**中知**まろ登い布**三**のをは徒ちまろ
3 といふ登てよ那閑爾いてさりぬあ久るあ志
4 多爾**見**れはう志悲と徒志爾多り須那者ち
5 **大安寺**乃**南塔院**爾ゆ支てさみ二衣うをさ
6 う志てことのよしを閑堂らひて所の**経**を
7 よま志む**二**日よみて**三日**能あ可徒支爾徒

五六ウ

1 閑悲の**鬼**支多りてい者久**大**所うのちから爾
2 よりても、徒ゑの徒みをまの可れぬ**又**徒
3 ね乃志支より本か爾志支をましておほ
4 具衣多りよろこ悲多ふとふることふ閑志いま
5 よりのち爾はせち**日**こと爾久と久をおこ那
6 悲志支を久せよとい悲て多ちまち爾
7 き衣うせぬこ乃**人**とし**九**十よ爾して

五七オ　（中十四―中十五奈良京僧）

1　いのちを者れり堂い多う爾は**隠**（インクエン）**玄**とい
2　悲し**人**は**若**のち可ら爾よりてこ久わうの
3　め志をまの閑れ多り**日本**爾はい者志まあ
4　りて丶らのせ爾をう希て川か悲のお爾のと
5　らふるを万ぬ閑れ多り**霊異記**に**見**衣多り
6　ならの**京**爾悲とりの**僧**あり徒ね爾者うとう
7　**経**を春しよ爾徒支てせ爾を堂久者へて

五七ウ

1　めのこをや志那布む須めを登こ志て
2　をとこのいへ爾春む**帝**支あはい**天王**（皇）乃
3　**御**よ爾む須めのをとこむ徒の久爾能この
4　所う爾なりて志う登の所う乃せ爾**廿貫**
5　を閑梨て徒可ひて爾むせる久爾丶久多り
6　奴**一年**よをへて閑礼累せ爾いちへ志ぬ和徒可
7　爾もとの閑須を可へ志ていま堂り乃せ爾

五八オ

1　を徒久のは春登志徒支をへてな本者多りこ
2　布むこ悲所閑爾多よりをハかりて志うとをこ
3　ろ志てむと**思**て閑多らひてい者くこと久爾丶
4　ゆ支てこ乃せ爾を可へさむもろとも爾ゆけ
5　といへは所う布ね爾乃りてもろとも爾ゆ久むこ
6　ふ那**人**爾**心**をあ者せて所う乃よ徒の衣多を志
7　はりてうみ能な可爾おとしいれ徒閑へりてい徒

五八ウ

1　者りてめ爾か多りていは久ち丶の**大**登く[を]なむ
2　ちをみむ登て**我**を（と）とも爾和堂りき徒るを爾
3　和（は）閑爾あら支那ミ爾あ悲て布ねぅミ爾志徒ミ
4　ておほ丶れ志ぬ須久悲とらんと志徒れとも多へ
5　春なりぬ**我**もほと〳〵志久て和川閑爾い支た
6　流なりと伊ふむ春めこれを支丶ておほ支爾可那志
7　き閑那布多丶悲おやのみか本をみ春那り

五九オ

1 ぬることを**我**い可てかうみの所こ爾いりてむ
2 なし支閑者ねを多爾衣んとな支可那しふ
3 **僧**うみ乃所こ爾ありなから**心**をい多して**方**
4 **広経**を春ゝる爾うミの水さかりの支てをる
5 登ころ爾支多ら春**二日夜**をへて**人**布ね爾
6 のりてこのところを和多り須久な者のハ志を〃
7 うかひ多ゝよふゝ那**人**これをミてひ支あ久る

五九ウ

1 爾志者られ多る**僧**いて支多れり閑ほのいろ徒ね
2 乃こと志ふ那**人**おほ支爾あや志ひてな爾**人**
3 所とゝへは**我**は所れなりぬ春**人**爾あ悲て志はら
4 れておとしいれられ多るなりとこ多ふ**又**とふ
5 い閑那る須徒ありて可うミ爾志徒みて志那
6 さり徒る所とゝへはこ多ふ**我**徒ねに**方広大乗**を
7 須志多も徒所のち可ら那るへしといふ多ゝ志

六〇オ

1 むこの**姓名**をは**人**爾閑多ら春もとのさと爾
2 可へらんことをね閑ふゝな**人**これをお久るむこ
3 おちいり爾し所う能多めにとていさゝか那る所
4 う久をまう介てゝ徒からさゝ希て所う爾
5 わ可徒ほと爾志うとの所うい多りておもてを
6 徒ゝみてさみのなか爾ましりてゐて所の
7 せ**行**をう久むこの所う閑本をミ徒介てお

六〇ウ（中十五―中十六吉野山寺僧）

1 もてあを久あ可久なりておとろ支おちて
2 かくれぬ所うゑみをふ久みてうらみ春志の
3 悲て徒悲爾あらはさ春うミの**水**爾おほゝれ
4 春と久のいほ(を)爾のまれ須していのちを徒悲爾
5 ま堂支**事**は**大**所う**経**のあらはなるちから那り
6 登志りぬ**霊異記**(リヤウイキ)爾ミ衣堂梨
7 よし乃**山**爾悲と徒のやまてらあり**海部**(アヾヘ)乃ミ

六一オ

1 ねといふ**帝姫阿部天皇**(テイキア仁倍)乃御よ爾**一人**の所うあ
2 りて閑乃**山**てら爾須むとし悲さし久おこ那
3 悲て徒とめてミ徒可れちからおとろへてお支
4 ふ須こと多へ春なりぬて志の所うまう春**大師**み
5 徒可礼堂ま悲てやま悲春て爾おも久那
6 りたまひ爾多り**身**を多須介て**道**をお
7 こ那布こと**仏**乃と支多万ふ登ころなり

六一ウ

1 やま悲能所う爾はゆる志堂まふなりうる
2 を閑ふは徒み可ろ支那り**心**み爾那を(ほ)いを、
3 まゐれ登いふねむころ爾須、無礼者な爾
4 閑はといふて志きの久爾の(ほとりに)とうしをや流
5 とうしゆ支てあさら閑那るなよしや徒
6 を可悲てち悲さ支ひ徒爾いれて閑へり
7 久るほと爾**我師**を忘れる所久**三人道**爾

六二オ

1 あ悲て志のもとへもてゆ久ものなめり登
2 ミてなむちのも多るはな爾所と、へは
3 **心**爾もあら春志て**法花経**なりとこた
4 へ徒悲徒よりいをの志流多りおちいをの可
5 あらは爾久さ閑梨介れは所久和ら悲て(ハの)〝〝
6 い川者りを多、さむ登おもひていちの
7 なかを須久る本と爾和らはをと、めて

六二ウ

1 おほくの**人**のなかに志てなむち可も堂
2 流ものはこれいをなり伊閑て**経**とは
3 いふ登、布爾和らはなを(ほ)これは**経**なりい
4 本(を)爾はあら春とあら可ふ所久はみ那これ
5 い本(を)なり**経**爾はあら春登せめて志悲て
6 あ介てミむと春れはわらはか、流こと
7 え須して**心**(つ能)爾うちニねむをおこ須**我師**

六三オ

1 乃と志ころよみ多てま徒り堂まふ**法**
2 **花一**所う和礼を堂須介多まへ志爾ハちを
3 ミせ多まふ那登ねむ須所久ひ徒をあ介
4 てミ流爾**法花経八巻**あり所久**共**これをみて
5 お所りあや志閑りてさりぬ**一人**乃所久那
6 を(ほ)あや志とおもひておくれて和らは爾所
7 ひて丶ら爾い多りぬ閑久れてミれはわらは

六三ウ

1 志爾む閑悲て徒布さ爾こ乃よしを
2 能布**師**これを支丶てあや志悲よろこ悲て
3 久は須那りぬ所具**五**堂いを**地**爾な介て
4 せしを丶かみてまうさ久まことのいほ(を)
5 なり介れ登も悲しり能登久爾よりて
6 **経**爾なれり和礼久ちさ支(**見**)爾志て**因果**
7 をしら春して悲志りの徒可ひを那や

六四オ

1 まし和多(徒)らは志徒ね可は久は徒み
2 をゆる志堂まへ和可**大師**登志多て
3 ま徒らんとい悲て**大檀越**(たん)登なりてなか
4 久ゐやま悲久やう須まさ爾志るへし
5 乃りの堂め爾は、堂須久れはと久もへ
6 ん志て久春りとなりいをも**化**志て**経**
7 と那る**霊異記**爾ミえ堂り

六四ウ (中十七美作国採鉄山人)

1 みまさ可乃久爾**英多郡**爾おほや希久
2 ろ閑ねを登る**山**あり**帝姫阿倍**(テイキ ノムスメ)**天皇**(へ)**御**
3 よ爾久爾乃徒可さ堂み**百人**をめ志て閑
4 乃**山**爾乃ほりてあ那爾いれて久ろ可ねを
5 本ら志む流爾あ那乃徒ち久徒れ布多可り
6 いれる**人**おとろ支お所りてあ那よりき本
7 悲い川る爾**九十九人**者和徒可爾いて丶**一**

六五オ

1 人お所具い徒るほと爾あ那乃久ち久徒れ
2 おちぬく爾の徒可さな介支あ者れ悲めこ
3 閑那志悲て本と介を可支**経**をう徒志
4 て**四十九日**乃**法事**をおこ那悲をはりぬこ
5 乃悲と〳〵りあ那のうち爾ゐておもふ**我**む
6 閑志**法花経**閑支堂てま徒らんといふ
7 **願**をおこせり伊ま堂う徒し多て万

六五ウ

1 徒ら春和可いのちを多須介多まへ羅ハ
2 閑那ら春登久閑支たてま徒らんと
3 ねむ須る爾あ那能ひまおよ悲さしい
4 流**許**登本りて**日**乃ひ閑りわ徒可爾支
5 堂る**一人**能さ見ありて悲まよりいり
6 支多りて久悲ものを所那へてあ堂布
7 閑堂りてい者久那むち可めこの和

六六オ

1 れ爾あ堂へ徒るものなりなんち可う
2 れへ和布れはことさら爾支多り徒る
3 なり登い悲てま堂ひまよりいてぬさ
4 梨て乃地悲さしから春志てを流
5 い多ゝ支爾あ堂りてあな日ら介とほ
6 りて所らあらは爾ミゆ日ろさ**三尺**
7 よ堂かさ**五尺許**なりと支爾むら

六六ウ

1 **人卅**よ**人**可徒らを久り爾**山**爾いりて
2 こ乃あ那の本と〔り〕をゆ支春久所こ那る**人**
3 悲との閑介をミてよは悲さ介ひて**我**
4 を堂須介よとい布本の可爾支久爾か
5 乃こゑのことし須那者ち支ゝあや志悲
6 て閑徒ら爾い志を徒介て所こ爾い
7 れてこゝろミる爾所この**人**悲支うこ

六七オ

1 可須**人**なり希りと志りてか徒らを
2 む春悲てこ爾徒久りて可徒らを那
3 ひて徒な爾徒介てお登志いれ徒
4 所この**人**乃りゐ爾介れはうへの**人**悲
5 支あ介徒おやのいへ爾ゐてお久るい〔へ〕の
6 **人**これをミて可那志悲よろこふこと
7 か支りな志久爾の徒可さおとろ支とふ

六七ウ

1 徒布さ爾久多りのことをまう春丶那
2 ハ地おほ支に堂う(ふ)登悲閑那し悲て
3 久爾乃うち爾ち志支をと那へて
4 **我**より者志めてちからを久はへて
5 所の**法花経**をか丶せておほ支爾久
6 やう春せしむい支閑堂〔し〕久志てい
7 支多ることこれ**法花経**の**願**乃ちか

六八オ　(中十七―中十八大安寺栄好)

1 らなり**霊異記**爾み衣堂梨
2 む閑志**大安寺**爾ゑいかうとい布所うあ
3 り**身**ま徒志う　ておこ那悲徒とむ
4 丶丶ろよりい徒ること那志おい多る者丶
5 をてらのほ閑爾須ゑたり**一**人乃和
6 らはをむろのうち爾徒かふ**七大寺**は
7 い爾志へむろ爾閑まこ志支をおか春

六八ウ

1 まところ爾い悲をかし支て無那久る
2 万爾徒ミてあし堂こと爾所う者う能
3 まへよりやりて悲とりの所う所うこと爾
4 い悲**四升**をう希志むゑうかうこれ〔を〕
5 う介てよ徒爾和閑ちて悲と徒をは
6 **母**爾堂てま徒る悲と徒を支多る**乞者**
7 爾あ堂布悲と徒をはみ徒から久ふ

六九オ

1 悲と徒をは和らは爾あて堂りま徒
2 者、爾お久りてまい(る)り、徒、るよしを支
3 、て乃地爾み徒可ら久ふ**師**久悲て乃
4 ち爾和らは久ふあまたのとしをへて
5 こ乃ことあやま堂春**房**の閑堂者ら
6 にち可久ならひてこさうとい布所う
7 須む**又身**ま徒し久志て川とめあり

六九ウ

1 ゑ可う登志た志支登もと志て登
2 しをへてこ乃ことをみ支久爾**人**あ
3 志多可へ越へ堂て、き久爾ゑ可う
4 か登うし介ふのい悲をう希お支て
5 可久しお、支て那久こゑありこさ
6 うあや志みて悲所閑爾和らはをよ
7 悲てな爾こと爾よりて那久所と、へは

七〇オ

1 こ堂へてい者久介さ**師**乃所う徒、か
2 那久志てに和(は)閑爾をはり多まへり
3 ま徒おのれ悲とりしてい閑さま爾
4 てもい閑さにてをさめ堂てま徒らん
5 登春らん徒支爾は志のい悲爾か、り堂
6 まへり、徒、る志の者、い閑爾てい支多 ※※
7 万へらん登須らん登い悲て那久こさう

七〇ウ

1 閑那志悲おもふこと可支りな志おの閑ち、ハ
2 、爾、和閑れ堂らんことし須那者ちを
3 志へてい者久なむちさら爾おもふへ
4 から春をさめん**事**は和れとなむちと
5 志てこよ悲もてか久志てむ者、を
6 は**我**あ悲可はりてい悲をわ介て
7 や志那者む(なむ)ち春支ぬる爾可はら春

七一オ

1 い悲も**又**お那し須へていまは和れ
2 をたのまむことの志のこと久おもへ
3 所も〳〵このよしをは**母**爾志ら志む那
4 としおいおとろへ堂れは支可は閑那ら
5 春まとひ志爾堂まひなむと支多可ハ
6 さるさ支爾登久介ふのい悲をお久れ
7 といふ和らはこ乃ことを支丶て閑那志

七一ウ

1 悲のうち爾よろこ悲をな春なむ堂
2 をこほし徒のこ悲本志て徒れなき
3 さまを徒久りてれいのこと久い悲をもてい
4 久那むたのおちぬへ介れはい布**事**も那
5 具志てさしお支て登久可へりぬハ丶
6 希ふあし堂爾**心**者志り志介りこ乃よ
7 こさう和らはと爾那ひてゑうかうを

七二オ

1 布可支**山**爾お支徒てらのうち爾志ら
2 志め須して志はら久本可へさり爾
3 堂るとい者志むこさうおの可い悲を
4 和希てもとのこと久爾ハ丶爾お久り和ら
5 は爾た万ふは丶と支〳〵わらは爾とふなと
6 か悲さ〔し〕うはいませぬとまうせ。は和らは
7 乃い者久徒ね爾いて多ち多まふを**御**

七二ウ

1 おこ那悲丶ま那久悲とり(ら)支多りあ悲徒丶
2 登まら流丶なり堂丶た悲ら可爾おは
3 須と支丶よろこ悲てい所可れるなりこよ
4 悲もこよ悲も万ゑられなむ登い悲徒丶
5 徒支悲をおくるま堂のとしのはる
6 ある**人**支多りてこさう爾久やうをた
7 てま徒るせは支者う爾まらうとあ

七三オ

1 徒まりてわらはま徒このことをい所支て
2 い悲を和久ること志はらくおこ堂れり
3 まらうと志悲て久須りの佐介を春
4 丶めてこさうさけの介ありてねふり
5 いれりおとろ支てみ流爾**日**の可け閑
6 堂布介り須那ハち和らは爾めを久はせ
7 てれいのい悲をやり徒盤丶か多らひて

七三ウ

1 いは久おいぬる**身**の久ちをしかり（ケル）ことは
2 礼いのと支須こ志春支ぬれは介さ那
3 む**心地**あし閑り徒るといふ爾和らはか那
4 志悲のこ丶ろむね爾あまりて爾わ(は)か爾布
5 しまろ悲な具**母**あや志悲てとふ和ら
6 はか久し者徒ること阿堂は春志て那
7 久〳〵いは久まことは**御**こはいま丶てい万

七四オ

1 春かりとやおほ春こ所のその徒支爾か
2 くれ多まひ爾支といふ（皆）、いか爾〳〵といふま丶
3 爾多衣をはりぬ和らはいよ〳〵閑なしかり
4 てこしらへおとろ可せともい可春久いお
5 もへともか悲も那しことのよしをこさ
6 う爾万う春こさう閑那志。ひて那久ことか
7 きりなし和れも志まこと能こ那らま志

七四ウ

1 閑は可丶流ことをあらせましやは**我**も
2 志ほと介のせい〔し〕多万へるさけを能まさら
3 ま志可は閑堂と支もお〔こ〕多らましやは
4 とい悲徒丶な支那介久ことねむころ爾布
5 閑志こよ悲登う本う能**人**〳〵**七人**を閑
6 堂ら悲てもとの和らは志堂志久所悲て
7 このをんなをいは布ちのてらの**山**乃那、

七五オ

1 閑、爾は布り徒あ久るあし堂爾八人乃僧
2 堂う爾伊梨て志はや須むこさう閑
3 たら悲てい者久我ゑうかう爾閑者りて所
4 乃者ハをや志那悲徒所の心さしいま堂悲さ
5 志からさ流爾そ乃いのち春て〔に〕多衣爾堂り
6 な介支ても可悲那志いまは乃ちのよを
7 みち悲可んとおもふに多う能うち爾いま春

七五ウ

1 仏乃みまへ爾経いま須みれは法花経な
2 り和れハ人志て八巻乃経を衣多り縁あり
3 登い布へ志七日七日乃あ悲堂はこのてら
4 に支多りて一日爾一鉢をまう介て一人
5 爾一巻をかうせしむ登志ことの支日に
6 もけふの八人地可らをあはせて所の日を
7 はて爾て四日乃かうをおこ那悲て八巻

七六オ（下序）

1 をと支て奈可く能りのともしひをかゝ介あ
2 るいはかいりち〔を〕まもりて鉢のあふらを可た
3 ふけ春あるいは真言をつ多へてまた久可
4 めのみ徒をうつしあるいは大所うを春
5 ゑてあまねくころものたまを可くあるいは
6 禅定 せ多支をこのみてよのいそ支を春てある *
7 いはせ介む爾いてゝ人能こゝろをすゝむみ那

七六ウ

1 これ仏介う能あま多の可とよりわかれいりて
2 おなしく本多い能ひとつ所ニい多りあ者むと
3 春るなり又可いをや布れる所うをもわれお
4 なしくゐやまふ経爾能多まはく多とひ
5 浄戒をやふれりとも輪王爾も春久れ多り
6 たとひあく道におつれと毛よろ徒の者那爾
7 まさりせむ多む可う能もえうせ多れと毛も

七七オ

1 ろ〳〵能ころもに、ほへる可ことし干能うし能
2 な可にひとつしぬとて能こりのうしを春徒へ
3 から春あま多のかい能な可爾ひとつ可介ぬとて
4 か多へ能可いをかろむへから春閑うを徒、め
5 りしふくろはかう、せぬれともな本可う
6 はしかいをうけて志みは可いやふれ多
7 れと毛な本多う(ふ)とし登いへり万堂かいをう

七七ウ

1 けぬ**沙門**をもわれふかくうやまふ**経**爾のた万は
2 くりう能こはち日さくと毛可ろむへ可ら春く
3 もをま支あめを久多春さみはいと。支那くと毛
4 あ那徒るへから春**道**をえ**人**をわ多春といへ
5 り春へてこれをいへは可多ち**沙門**ニ、ぬれ盤
6 可那ら春**賢劫**能もろ〳〵能本と介をみたて
7 まつりたの見を**大非経**能もむ爾け多りみ爾

七八オ

1 介さ支つれ盤み那**女**らい能まことのこ(ミ)と那りぬ
2 いましめを**大**し布**経**能な可爾能こせり本と
3 けいましめて能多まはくもし可れをう
4 つは春那者ちわれをう徒なりもし可れを
5 能るは春那盤ちわれを能るなりとの多まへ
6 りくさくはうるはしうかされるいろあれと
7 もかりの徒はさのとほくとふ爾はし可春

七八ウ

1 **白衣**はとみ多ふと支ち可らあれと毛所う能み
2 ち能まことに春くれ多る爾はおよは春こ
3 の遊ゑ爾徒と免あるをもつとめ那きをも
4 能りのう徒は**物**そとたの見さとりふ可支を
5 もさとりあさ支をもほと介のつ可ひとおもへ
6 もし盤まことにまれもし者いつはり爾万れ
7 そのと可をあらは散、れ盤あるは多う(ふ)とき

七九オ

1 爾もあれいやしき支爾もあれそのとくを
2 ほむへしお本よそ本ふ能こ〔、〕ろをもちて賢
3 さう能みちをは可り可たしかの希う本む（或本指緩比丘云々）
4 比丘はあし支人なりみるもの多れ可過去
5 能女らいとしらむふ経本さちはく多れる可た
6 ち那りう徒ものみらい能介う春とおもは
7 散り支まことのくらひ(ゐ)可りのあとしり可多し

七九ウ

1 。かしみ那うやまはむ爾盤うちのとく本か（志）
2 能可多ちさため可多し丶か志春へて本めむ爾
3 盤むかし能。おろ可爾してほふ(か)の所うを（維那）
4 のれりしは九千一こむし能可たち〔の〕徒見を
5 うけ年ふ〔少〕の多はふれ爾おい多る所うをわ
6 らひし盤一五百生いぬのみのくるしひをう
7 介多りこ丶をもちてむ可し能さ可しきひと

八〇オ

1 者み那本と介の御弟子を多う(ふ)とひ支影賢王
2 能干能所うをやしなひし太子うけて
3 あひつ多へ阿育王能もろ〳〵能所うを丶可み（イク）
4 志大臣いさひ(め)し可と毛やまさり支須達長（セイセシ）
5 者盤てらを徒くりて春ましめ耆婆医王（キハ イワウ）
6 盤ゆをわ可してあむしきい盤むや大さ
7 う能可り人爾ころされしもひ介可見を所れ

八〇ウ

1 るをみてよくし能ひらせちの徒見ひとを九
2 らひしも能りのころもをまつへる爾おとろ（徒）
3 きて春那盤ち散り爾支お爾介たものたにう
4 やまひ介りひとのこ丶ろ爾あ那徒るはおろか那
5 るなり春へてよのともしひとつ多へく爾の
6 多可らと那つけ年能うちの多う(ふ)と支わさを
7 おこ那日ゆく春ゑ能よ支道をしふる

八一オ

1 ことみ那**沙門**能とく爾あらぬはなし**我**ハ
2 ま多ゝ那こゝろをあはせて所う能多う(ふ)
3 と支可(こ)とをあらは春　**正月**　**修正月**
4 **仏**と支たまはく**一日**もいもひを多もては
5 **六万**さい可てを盈徒なゝあゆみもてら爾
6 む可へは**百千万**こふの徒見をけ春と能多
7 まへり**又経**いはく**正月五月九月**爾は多い**尺**

八一ウ

1 なむえふ多い爾む可ひて春さう徒くる**所**能
2 **善悪**をしる春このつ支爾はゆあ見いも
3 ひ志てもろ〳〵能よ支ことをおこ那へといへり
4 これ爾よりてなるへしあめのし多のひ登
5 **正月**爾はみ那つゝしむおほや介爾はなゝつ能
6 **道**能くに〳〵耳ほうしあま爾ふせをたも(ま)ひ
7 て徒とめい能らしめわ多くし爾はもろ〳〵能

八二オ

1 **山**や万能**寺**てらにを(と)こをむなとう**明**を可ゝ
2 介てあつまりおこ那布またい能ちをのふる
3 ことくきゝて可ゆをもちて所う爾くやう
4 春るひともあり**四分律**(リチ)爾よつ能りやくありと
5 と支所う支**律**爾はとほ(を)(のりゃく)ありとあ可せ
6 り介のな可爾いはく**人天**能**中**爾い能ちの多能し
7 ひを盈むとおもはゝいまゝさ爾可ゆをもちて

八二ウ

1 もろ〳〵能所う爾本とこ春へしといへれ盤なりみ
2 能うへのことをいのりとし能うちの徒ゝしみを
3 な春爾てらとしておこ那者ぬハなく**人**として
4 きよまはらぬハな介れ盤とし能はし**め**爾は
5 く爾のうちにせむ(善)こむ(根)あまねくみち多りまさ
6 爾しるへし多いさく能**玉**のかゝみ爾てらしえむ
7 ま**王宮**能こ可ねのふ多爾しる春らん

八三オ

1　**保安元年六月七日書う徒し**　3　**願以此功徳　普及於一切　我等与衆生**

2　お(を)はりぬ　4　**皆共成仏道**

以上、関戸本東大寺切の本文を写真をもとにして、補正したが、これによって、記述内容にも多少の相違が生ずるので、左にそれを連記する。なほ本文中の（　）は、旧翻刻文の辞句、ページ数は、「説話の語文古代説話文の研究」における当該記述個所である。

「白木（百木）」（一五ウ6）は、ぬりでの木・ぬるでの木（白膠木）のことで、白木が正しく、ビャクモクと音読したものであらう（一二八ページ）。「今日せずはいつかわが（ハ）せむとしはへぬべし」（二五オ1）は、下十八灌仏終末部の歌謡である（六四ページ）。「はこをさ（ち）しいだし」（四〇オ1）は、観智院本ツクリイダシ、前田本「令造笥」であるが、本文「指し出だし」となる（七三ページ）。「つかひこれをみておがむ（おらび）」（四二オ7）は、前田本「使見之礼」であり、「おがむ」はヲ／オの例となる（一五八ページ）。「おそるゝこと（おそること）なかれ」（五四ウ1）は、「おそる」の上二段活用連体形の例となること既述の通り(註)（一〇四ページ）。「いかで（いかに〔し〕て）」（七〇オ6）は、観智院本イカニシテで、東大寺切の和文的改変の例となる（一一二ページ）。

なほ「はうとうぶの」（一ウ4）は、「方等部の」で「ふの」を衍とする必要なく、「くちひるみ」（三九オ5）は、「みにくく」を補ふ必要なく、「ひるみ（痿痺）」でよいこと馬渕博士の指摘されるところであった。謝意を表して筆を擱く。

註　拙考「三宝絵詞東大寺切追考―「おそる」の活用など―」（大坪併治教授退官記念国語史論集二七〇ページ以下）

宮内文庫
[illegible]

一三四

○元春

元帝乃御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]